

北方民族の服飾からイメージしたドレスⅢ

—— アイヌの衣服文様から ——

The Women's Dress from the Images of Clothing in Northern Countries Ⅲ

—— The Forlk Costume of the Ainu ——

泉 山 幸 代

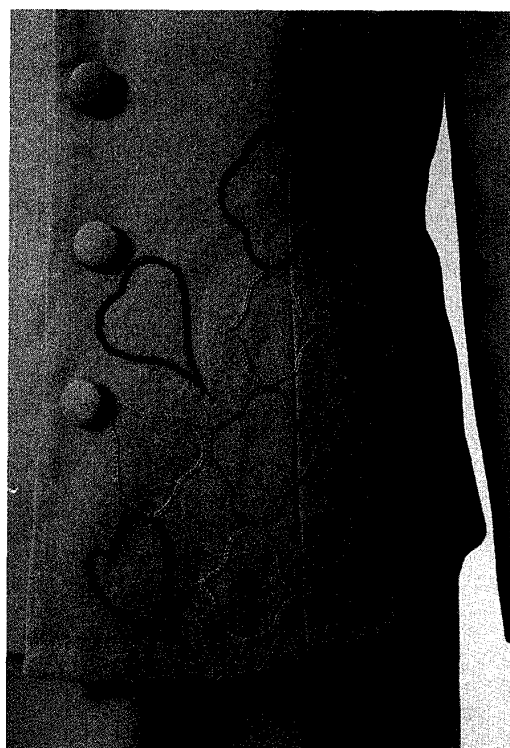
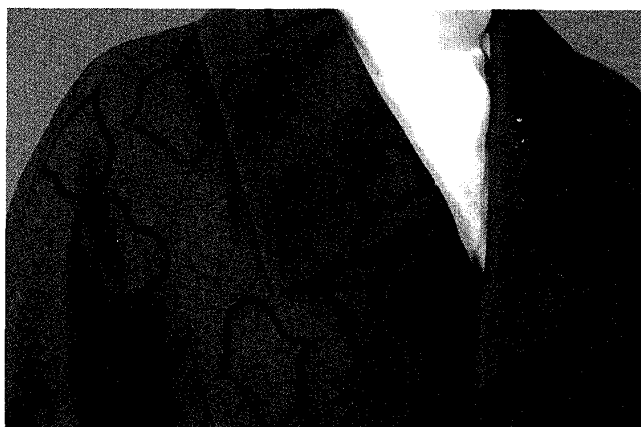
Sachiyo IZUMIYAMA

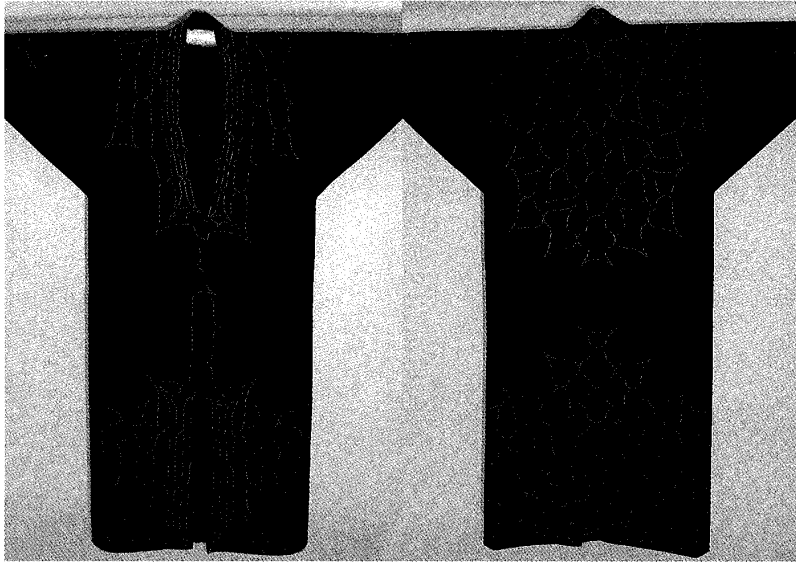


服飾文化学会第8回大会研究発表

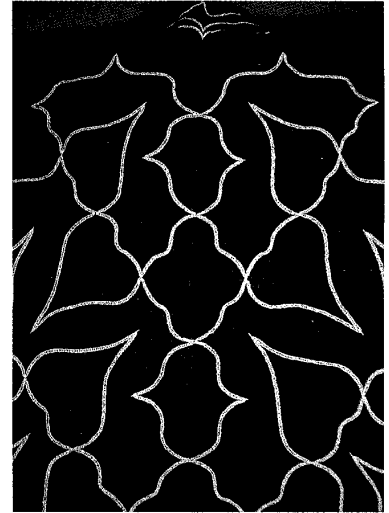
2007年5月19日～20日

会場 お茶の水女子大学





1890年代のチヂリ 北見にて収集（市立函館博物館蔵）



チヂリ刺繍部分（背面）

今日北海道各地では、アイヌ民族衣装のアイヌ文様を、現代アートに生かすデザイン活動が、若手のアイヌ伝統文化伝承者を中心に行われている。そこで、アイヌ衣服文様と継承されている技法を現代の衣服デザインに取り入れ、民族衣装の新しいイメージによる作品づくりを、ここ数年試みている。アイヌ民族衣装の「チヂリ」と呼称されている木綿衣は、直接刺繍のみで文様をつくる衣服である。今回はこの刺繍技法を取り入れたドレス「スーツ」を制作し、アイヌ文様の伝統的な美しさとともに、そのオリジナリティも表現したいと思った。

2006年12月から約一ヶ月間、北海道立近代美術館にて展覧会「アイヌ文様の美」が開催された。その際展示されていた、明治20年代に北見地方で収集された「チヂリ」の生命感あふれる文様に心惹かれた。文様は花びらや葉、あるいは果実などを思わせる形が、衣装の背面から裾にかけてリズムカルな連続線となって配置されている。この植物文様からの抽象的なハート形や、果実を連想させる幾何学的な釣鐘形に、一世紀以上の時を超えた現代アートを感じるのである。実際に市立函館博物館での文様採取時には、文様の予想外の大きさと曲線のダイナミックな連続性に圧倒され続けた。そして、北方少数民族の一女性の斬新な感覚を知ることになった。文様のほとんどがチェーン・ステッチ（アイヌ語でオホ）によるものだが、その独自性を表現したくドレスの前・後身頃、衿、裾に配置した。使用素材はウール地、刺繍糸は木綿糸を使用した。

アイヌ文様はデザインの的に興味ある要素が多く含まれている。このチヂリの文様にはチェーン・ステッチの微妙な技法による変化と、曲線的な伸びやかさが特徴であることを、制作過程の中で理解できるとともに体得することにもなった。そして現代のドレスデザインにこのモチーフを組み入れてみると、文様の大小の配置により異なった表状ができる面白さもあった。これからも北方圏の少数民族の服飾から、新たなイメージの作品づくりを続けたいと考えている。

参考文献 函館市北方民族資料館：華麗なアイヌ衣装の世界～児玉コレクション～ pp.15～16. 2006
北海道立近代美術館：アイヌ文様の美 pp.179. 2006